

森林組合役員会の台湾視察研修 (NPO フォレストアカデミージャパン理事長 狩野記)

日南町森林組合の監事として参加し、阿里山に残る樹齢千年・二千年といわれる台湾ヒノキなどの森林資源を視察してきました。

日本時代には、灌漑ため池の建設により農業が振興されたことや、森林鉄道を敷設し森林資源の利・活用や植林事業の推進などで生活度の向上が図られ、経済活動も活発になったことによって、現在、きわめて親日的な国となっています。

今回、阿里山「森林遊楽区」で、三代にわたるヒノキなどの巨木群を視察してきました。

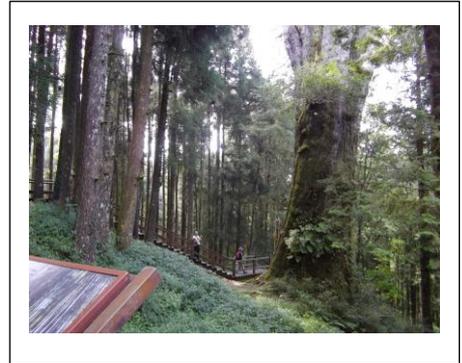
旧日本時代に植林されたヒノキ、そして、戦後まもなくは台湾の経済復興のために、日本の神社仏閣をはじめとした、森林資源の乏しかった日本に輸出された大木のヒノキの伐採後に台湾の手で植林されたヒノキなどが、残っていました。

「森林遊楽区」は、主に中華人民共和国からの団体客で賑わっていました。

1991年以降天然林の伐採が禁止され、現在は森林資源による産業活動は大幅に減少しているとのことでした。



気候の関係か樹高はきわめて高い



千年を超えるヒノキと巨木群



巨木を伐採後に育った二代目



台湾の人で植林した人工林群



㈱オロチ第2工場の建築の様子

日南町産材料でLVL(単層積層材)製品を製造する㈱オロチでは、4m対応のスカーフジョイント(木材繊維を斜めにカットして端部をつなぎ合わせる装置)を導入する第2工場棟の建設工事を開始しました。大型製品の需要の高まりを受けて製品ニーズに対応するためのものです。

工場では国産ヒノキ材を使用した無柱大空間を実現する工法にて建築が行われ、木造建築でありながら大型設備の導入が可能となります。12月に構造見学会も行われ、これからの木造建築のあり方として注目を集めています。